②市民生活に関する課題と政策展開の方向

九〇年代の市民生活の特徴とその課題設定、および解決の方向について「市民生活構造動向研究会」の議論を一覧にしたものが、次ページのフローチャートである。

市民生活の捉え方には多様な視点が考えられ、また現在の時点では、ばら色にも灰色にも描くことが可能であろうが、八〇年代から九〇年代の横浜市民の生活課題は、それぞれの市民にとって、様々な生活領域における不均衡と認識されるような問題にあるのではないか、というのが私たちの基本的な視点であった。またその課題の解決を考えるにあたっては、従来の課題解決の枠組みでは解決の糸口がつかみにくい性格の課題に焦点を当てようとした。

そこで③「市民生活に現出する流れと問題点」では、様々な社会変化の潮流の中で、横浜市民の生活を規定する大きな流れと市民生活に現出する矛盾を、市民の基本属性の変化、市民生活の東京依存、都市的生活様式の拡大、企業中心社会の反省、グローカリゼーションの進行という五つの側面で整理をしてみた。

④「課題と政策展開の方向」では、そうした生活課題を解決してゆこうとする際に、要請されるであろう政策形成の方向について整理してみた。都市政策、地域政策は七〇年代から盛んに研究されるようになってきたが、最近の政策を巡る議論は少し様相が異なってきているように思える。

簡単に言えば、都市化時代のシビル・ミニマムをいかにして達成するか、というものから、文化、緑、まちづくりなどの言葉に象徴されるように、現在では、生活が地域の個性との関係で議論されるようになってきている。こうした文脈のなかに、最近国会レベルでも地方分権、地方主権が議論されるようになった要因の一つがあるものと思われる。

ところで、都市の生活課題の解決に当たってその鍵となるのは、シビル・ミニマムが課題の時代にはお金と土地であった。しかし都市型社会の生活課題の解決には、その前提として④「課題と政策展開の方向」で提示した政策課題、つまり都市における公共の場の再生、都市生活イメージの確立と共有化、労働に関する新たな共同認識の確立、市民の主体性の確立など、いづれもこれらについて市民の新たな共通認識がどう形成されるかが重要である。

私たちはこれまで、技術の進歩が社会発展の源泉であるという思考を身につけてきた。そして都市生活は、専門分化し、サブシステム化され、断片化されたが、都市生活を可能にするためのサービスが供給されてきたし、行政機構やマスメディアを通じてコミュニケーションが確保されてきた。しかし、生活様式の組み替えを必要とする新しい生活課題の解決には、市民同士の連帯と了解が可能になるような、生活にかかわるコミュニケーションが成立しなければならない。それが市民参加を模索することでもあ

市民生活に関する課題と政策展開の方向（フレームワーク）

市民生活を規定する大きな流れ → 市民生活に現出する問題点

1．市民生活の基本的属性の変化と新たな政策ニーズ
出生率の低下，年少人口の減少，
老齢人口の増加，
単身世帯・核家族の増加，
従来の家族機能の外部化

→
- ●人口構成と世帯構成の変化
- ●家族機能と福祉
- ●いくつかの段階のまちづくりへの対応

2．市民生活の東京依存の光と影
就業地・情報・文化の東京への集積，
地価・物価の高さ，
"横浜都民"という実態

→
- ●横浜に影を落とす東京プロブレム
- ●生活核都市づくりの可能性

3．都市型生活の膨張と矛盾
日常生活機能の外部化，
大量の資源の摂取・排泄・流動・消費，
人口の集中と住宅開発の進展

→
- ●日常生活意識の断片化
- ●都市生活イメージの混乱

4．企業中心社会の反省の兆し
長時間労働，過労死などの企業活動による個人の生活の包摂，
女性・若年層の労働意識の変化

→
- ●企業中心社会の台頭
- ●支払い労働の肥大化と生活労働のシャドーワーク化
- ●企業社会への反省のきざし
- ●新たな労働形態の出現

5．グローカルゼイションの進行
生活環境の世界標準化，
市民・企業活動の地球化，
外国人市民の増大

→
- ●国際化時代の市民意識
- ●ローカル・アイデンティティの萌芽
- ●ダブル・アイデンティティへの要請

⇔

課題と政策展開の考え方

1. 都市における公共の場の再生
- ●都市空間の公共性の認識
- ●都市空間における"場所性"の回復
- ●市民セクターの育成
- ●新しい公共性としての地域福祉システム
- ●まちづくりに関する議論の活性化

2. 都市生活イメージの確立と共有化
- ●都市生活イメージの混乱
- ●市民の余暇に対応した都市づくり
- ●非市場的な文化の保証
- ●新たなまちづくりの視点

3. 労働に関する新たな共同認識の確立
- ●支払労働へ傾斜した日本社会
- ●多様な働き方の出現
- ●企業に替わる精神的支柱

4. 市民の主体性の確立
- ●市民がまちづくりの主体へ
- ●市民の主体性の確立
- ●行政スタイルの変換

るし、生活をそして都市を公共領域で語ることにつながるのであろう。

2「横浜市民生活のプロフィール」は、様々なデータ・資料から、横浜市民の生活の特徴的なプロフィールの提示を試みたものである。

3「横浜における今後のまちづくりの視点」は、当研究会で講師をお願いした方々に、今後のまちづくりの視点を提起して頂いたものを掲載した。